

対話と出会いで、一歩が変わる。

TIP*S POST

vol.09

<http://tips.smrj.go.jp/>



TIP*S とは何か

TIP*Sは、中小機構が運営する新しい学びの場です。年間約200回のワークショップやイベントを通じて参加者同士が対話することで、それぞれが新たな気づきや想いを胸に、自ら決断し、アクションを起こし始めています。

イベントに集まるのは、何か行動したいと感じている多彩な方々。中小企業と大企業、地域と都会など、垣根を越えた人と人との出会いを生みだし、それぞれの想いや活動を支え合う関係づくりを目指しています。

TIP*S での学び

TIP*Sのワークショップや講座は、バリエーション豊か。ひとりひとりの「一歩進みたい」を、丁寧に応援したいという思いで、さまざまな企画を考えています。

そして、イベント当日は、対話が自然と盛り上がる雰囲気づくり、さらに学びを深めたい方同士のつながりづくりに力を入れています。

まずは気軽に、関心のあるイベントに参加してみてください。多様なバックグラウンドを持つ参加者同士で話すほど、刺激を受けあってモヤモヤします。

そのモヤモヤが、自ら考え、行動するためのステップ。いつのまにか「一歩進んで」いるはずです。

Access



〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-1 丸の内二丁目ビル 6F 611 区

JR 東京メトロ丸ノ内線 …「東京駅」丸の内南口より徒歩3分

東京メトロ千代田線 …「二重橋前駅」4番出口より徒歩3分

TEL: 03-6212-1840 [受付時間: 11:00 ~ 18:00 (平日)]

FAX: 03-6212-1841 E-MAIL: info-tips@smrj.go.jp



TIP*Sの「学び」を旬のコンテンツからご紹介



「人間の本质を見つめ、参加者とともに“考え・行動する視座”を拡げる」今回の企画。ゲストは、人工知能(AI)の研究者、松田雄馬さんです。

AIと聞くと「人間の仕事が奪われる」、「シンギュラリティ到来で人間はいつか滅ぼされるのでは」などと、漠然とした不安も感じてしまう今日ですが、松田さんは「テクノロジーは人と社会の幸せのためにある」という信念のもと、研究を続ける科学者。AIを研究するからこそ見えてきた、AIとは明らかに異なる“人間の知”とは。ファシリテーターのヒミコさんとともにその本質を探り、対話する場がはじまります。

開始早々「松田ワールド」炸裂！引き込まれる参加者のみなさんに「ものを見る」という行為を例に、人間とAIの知の違いを解説されます。

人間が「馬」と認識する画像も、AIはピクセルの羅列としか認識できない。パンをトングで掴む友人を見て、人間は「パンを買いたい」という友人の意図を読み取ろうとしますが、AIはトングで掴む動作だけを認識する。人間の「ものを見る」は、能動的に意味や意図を理解しようとすることであり、人間の知能の一部を代行し「弱いAI」と呼ばれる現時点のAIは、「見る」だけでなく、聞く・感じる・思い込むことも大の苦手。研究するほど、精神を持つ“人間の知”とそうでない（弱い）AIの知は同列に語れないとを感じるそうです。

逆に、データの統計処理などが人間よりはるかに得意なAIに、人間の知をサポートしてもらえれば、幸せな「人とAIの共生」が実現できるのではと話されました。

トークを受け、参加者は「誰かと対話したい問い」を各自で考え書き出します。今回はマグネットテーブルという方法でチーム分け。書き出した「問い」を見えるように掲げて歩きまわり、自分と似た問いや面白そうな問いを持つ人と4、5名のグループをつくります。

グループで決めた問いを囲んで対話しますが、話すごとに新たな疑問が生まれ、他グループの発表を聞くたびに頭はフル回転。「能動的に意味を理解しようとするのが人間なら、“能動的に動く”というプログラムをAIに入れたら人間に追いつくのでは？」「そもそも、能動的ってどんなこと？」…哲学的なテーマだけに一層モヤモヤ。TIP*Sの室温も明らかに上がっています。イベント終了後も、松田さんへの質問の列は長く続いていました。

“人間の知”は人間単体ではなく、常に変化する自然や周辺環境との相互作用の中で、即興劇的に行動を変化させ、実世界を生き抜くことで生まれたもの。そんな“人間の知”を掘りどころに人間は物語を描き、未来は変化する。と松田さんは言います。

私たちは能動的に人と対話し、知に出会い、自ら考え行動する必要があるのかもしれませんが。自分の即興劇を演じ、物語を紡ぎだせる人間としてこの先の実世界を生きるために。

『場』の
ウラガワ

ヒミコ

ゆうま

だえみ



だえみ—昨年度から人間の本质をテーマにした、ちょっと哲学的なイベントをシリーズ化したいと妄想していて、ヒミコさんと雑談していたんですよ。

ヒミコ—人間の本质を考える切り口として、AIやテクノロジーが候補になったとき「絶対松田さん！」と直感しました。講演や著作に触れて、人工知能の研究者でありながら、人間について深く考えている方だと感じたんです。しかもその講演がすごくオープンな雰囲気。こんな場が増えたら世界が素敵になりそう！と予感させてくれたんですよ。

ゆうま—僕自身、多くの方と一緒に考える場がほしいと思って場を開いていたからオープンに感じてもらったのかも。科学者って、社会と交流する場が少なくて結構悩んでるんですよ。

だえみ—意外。ご自身の研究に没頭するのが幸せなんだと…。

ゆうま—没頭できる研究対象を見つけても「これ、社会の何に役立つんだろう」とつらくなる研究者も多いんです。だから街場に出て対話するって大事で、視点も変わって新たな展開を招くかもしれない。「研究はみんなでやろうよ」と思ってます。

だえみ—私たちの初打合せも1時間のはずが3時間に。

ゆうま—みなさんよしゃべるから…。

ヒミコ—一番は確実に松田さんでしょ(笑)。

だえみ—打合せの日は偶然、松田さんのお誕生日だったんです。ドラえもんと同じ誕生日だと知って「松田さんはドラえもんじゃない？」って話になった(笑)。未来的なお仕事をしながら、根底に人間への愛情があるというか。

ヒミコ—そうそう。人を幸せにするためにテクノロジーを使うところが同じ。

ゆうま—ドラえもんって実はポンコツですけどね(笑)。研究を続ける上で僕が大事にしているのは、人に価値観を押し付けないこと。ドラえもんみたいに、講演や対話の中でアイテムは出すかもしれないけど、どうするかはその方次第。

だえみ—変わる力は、人間誰も持っていますよね。

ゆうま—うん。共有した時間で生まれた要素があるとき伝わって、その方を変える可能性はあるし、そうならいいですね。

PROFILE

松田 雄馬 さん

博士(工学)。1982年生まれ大阪出身。2007年京都大学大学院修士課程修了後、NEC中央研究所に入所。MITメディアラボ等との共同研究に従事後、東北大学とのブレインウェアの研究プロジェクトを立ち上げる。2015年情報処理学会にて優秀論文賞、最優秀プレゼンテーション賞を受賞。2016年に独立し、翌年合同会社アイキューバを設立。基礎研究と社会実装に同時にに関わり続ける研究者・実業家。

山田 育子(ヒミコ) さん

10年以上にわたり主に企業や大手メディアが主催する講演会や、シンポジウム、フォーラム等のイベント企画制作を手掛けた後、2012年に独立。イベント・PR・プロモーション活動の企画・アドバイスや実施制作を行っている。2015年に初めてTIP*Sでのワークショップに参加し、衝撃を受けて以来、「対話の力」に目覚め、現在はワークショップなど、対話を大事にする場づくりを中心に活動中。



イベントの内容を視覚的に記録するグラフィックレコーディング、通称グラレコ。企業や個人に向けて講座も開くぞのさんは、月3〜5回ほど参加されるTIP*Sのイベントでも自発的に描いてくださっています。話題ごとに囲まれた絵を追うと、今日の流れがすっと入ってきます。内容の充実ぶりに、写真を撮る参加者の方もたくさん！

「グラレコの魅力は、対話を深めるサポートになれるところ。絵を見ながら話す自分の考えも説明しやすく、互いの考え方の違いに気付けることも。イベントの振り返りなどに使ってもらえたら最高です！」



TIP*S Words TIP*S で生まれた「学びの言葉」

考える！「社会課題をビジネスで解決する」～挑戦する経営者との対話から～
第11回ゲスト：さくら住宅株式会社・代表取締役 二宮 生憲 氏

**社員を幸せにすれば、
社員一人一人がお客様を大切にようになる**

by 二宮 生憲さん

第31回 地域のサードプレイスを考える
横浜市『井土ヶ谷アーバンデザインセンター (UDCI)』
河原勇輝さんの取組から

縁によって起こる見えない価値を大切に

by 河原 勇輝さん



ぼんざぶ突撃レポート

「地域のサードプレイス」の今



CASACO (神奈川県横浜市)

今回は第12回(2017年5月)にご登壇頂いた堀口雄貴さんにお話を伺いに、シェア空間「CASACO」を訪ねました。堀口さんが理事を務めるNPO法人Connection of the Childrenが運営し、外国人や子ども、地域の方など様々な価値観をもつ人たちが交流できる場です。2016年4月のオープン以来、日直制のカフェを中心に営業してきましたが、場の認知度が高まるにつれ自主イベントの実施や貸スペースとしての利用が増えてきました。外部との連携も増加し、横浜国立大学の授業の一環としてイベントを共催するなど活動範囲が大きく広がっています。

堀口さん自身「イベントスペースをやりたいかったわけじゃない」と、場の変化に葛藤を感じることもあったそうですが、イベントの参加者が別の企画にも加わったり、想像を超えた共催企画が生まれたりといった動きが「CASACO」の多様性そのものだと感じられるようになったとのこと。人のぬくもりを感じられるちょっと雑然とした空間もまた、このような変化や多様性を生み出す土壌になっているように思いました。

